

身近な医療の現場から  
最新脳血管撮影装置導入とホットライン開設  
**神奈川県西地域の  
さらなる脳卒中診療強化**

脳神経外科部長 竹内 昌孝先生のお話



となつてしまいます。また、寝たきりなど重度の要介護となる原因の約3割を脳卒中が占め、認知症につながることもあります。人口の高齢化とともに脳卒中が増加すると予想されております。

2018年12月、「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係わる対策に関する基本法」が国会で可決・成立しました。

り前後の非常に細い脳血管にワイヤーなどを通して治療を行うため、精度の高いレントゲン画像が求められます。「Azurion 7 20」は、最新の脳血管撮影装置として、診断および治療時の患者様への放射線被曝をより軽減しております。脳動脈瘤や脳梗塞のさらなる治療成績の向上に寄与すると思われま

各地域での脳卒中診療体制を構築している段階ではあります。当院も一般社団法人脳卒中学会より1次脳卒中センター

当院は、脳神経外科専門医7名(そのうち脳血管内治療専門医6名)が24時間365日、初期対応をする診療体制となっております。脳卒中診療は「時間との戦い」であり、

1960年頃から80年頃まで、日本人の最大の死亡原因は、脳卒中(脳の血管が詰まる脳梗塞と脳の血管が破れる脳内出血・くも膜下出血)でした。現在は、がん、心疾患に次いで3位となっております。

認可を受け、さらなる脳卒中診療の強化を目的に、高性能の最新脳血管撮影装置「Azurion 7 20」(Primary stroke center:PSC)の

(時は脳を助ける)と言われ、迅速な診察、画像検査および治療が求められます。救急隊から病院への要請依頼があった際、

しかし、脳卒中を発生してしまうと約8割に後遺症をもたらし、長期のリハビリテーションや社会復帰が困難

「ワイリップス社」を導入し、あわせて脳卒中ホットラインを開設しました。脳血管治療は、1ミ

脳神経外科医師が直接ホットラインで患者様の受け入れを承認、同時に患者様の状態を把握します。これにより、病院到着前に検査、治療体制の準備ができる院内体制を構築しております。

神奈川県西地区の脳卒中診療を強化し、後遺症の軽減、社会復帰への向上に24時間365日対応出来るように努めております。



**最新脳血管撮影装置「Azurion(アズリオン)7 20」**

エックス線低線量ながら高解像度で広い視野を実現。飛躍的に画質が向上し、末梢血管の細かな部分まで描出。明瞭で立体的な血管像を見ることが出来るため、より高度な血管内治療や緊急性の高い治療に対応が可能。

取材協力

医療法人 財団報徳会

**西湘病院**

院長 原 俊介

小田原市扇町1-16-35

☎0465-35-5773

事務職員 募集中